足利赤十字病院神経精神科を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記連絡先へお問い合わせください。

研究課題名	Posterior cortical atrophy の長期経過に関する後方視的研究
当院の研究責任者	船山道隆（神経精神科）
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	Posterior cortical atrophy（PCA）では初期に視空間機能が障害され、日常生活に大きく影響を及ぼすことが知られているものの、長期経過の中でどのように日常生活上の困難さや行動症状を呈するか明らかになっていません。本研究は、PCA の日常生活上の困難さや行動症状の経過を探求することを目的とします。
調査データ該当期間	2011 年 4 月から 2025 年 5 月までの診療情報を調査対象とします。
研究の方法	○対象となる患者様 2011 年 4 月から 2025 年 5 月までの期間に、当院神経精神科病棟に入院された方あるいは当院神経精神科外来・認知症疾患センター内の神経精神科物忘れ外来を受診された PCA の患者様を対象とします。 ○使用する情報 　電子カルテより、発症年齢、性別、仕事内容、Clinical Dementia Rating（CDR）の global score と sum of boxes、日常生活に支障が出た原因（自動車事故、運転中止、仕事での困難や退職等）および発症からそれぞれを呈するまでの年数、特徴的な症状（失書、地誌的失見当識、着衣失行、道具の意味的誤使用、自己身体定位障害等）の出現の仕方および発症から出現までの年数、エピソード記憶障害・失語の呈し方と呈するまでの年数、重度障害を反映し

	た症状（後追い行動、鏡現象、家族の誤認、皮質盲等）の出現の仕方につき、取得する。また、MRI, ドパミントランスポーターシンチグラフィー、脳血流 SPECT といった画像検査の結果も使用します。 　結果から PCA の典型的な臨床経過を明らかにし、リハビリテーションや本人・家族のケアに関する有用な知見が得られる可能性があります。
情報の他の研究機関への提供	なし
個人情報の取り扱い	利用する情報から患者様を直接特定できる個人情報は削除しています。また、研究成果は学会発表や論文化を予定していますが、その際も患者様を直接特定できない形式となっています。研究成果の公開後にはデータは破棄します。
本研究の資金・利益相反	ありません
お問い合わせ先	電話 0284-21-0121　担当者：神経精神科　小山玄紀